

群 教 セ	G15 - 01
	平 29.264 集
	高 - キャリア

平成 29 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社 S U B A R U

長期社会体験研修員 山本 暁

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社 S U B A R U は、1917 年に海軍大尉であった中島知久平氏が群馬県太田市に前身である「飛行機研究所」を創設してから今年で 100 周年を迎える。節目の年である今年度 4 月 1 日から、企業名が従来の「富士重工業株式会社」から「株式会社 S U B A R U」へと変更された。

主な事業内容は、自動車及びその部品の製造、航空機や宇宙関連機器部品の製造、販売及び修理である。自動車製造に関しては、国内では群馬県のみで行われている。販売に関しては、国内に加え海外およそ 110 か国で展開しているグローバル企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月6日～4月13日】（研修場所：赤城林間学園、本工場西本館他）

研修初日、赤城林間学園で行われた新入社員宿泊研修に参加した。そこでは主にアイデアカーの製作による研修を見学した。本研修では、コンプライアンス教育、安全・防災教育、スバルを一層理解するためのスバルイズム講義などについて新入社員と共に受講した。

(2) 人事課での研修【4月6日～3月23日】（研修場所：本工場本館人事課フロア他）

① 人材開発係

社員の情報周知を目的とした月 1 回の各課報告会である月例会では、事務局として各課への原稿依頼や校正作業を行った。また、創意工夫改善提案業務では、事務局補佐として毎月各課から届く改善提案の取りまとめを行った。伝票起票業務では、各課から届く支払伝票や従業員立替伝票の起票業務を行った。さらに、式典業務として、永年勤続者を対象とした表彰式や所内技能五輪大会での入賞者を対象とした表彰式、成人式などの運營業務にも携わった。

② 人事企画係

東京都八王子市にあるスバル総合研修センターで行われた高等専門学校生対象の会社説明会に運営として参画した。また、高等学校を卒業した新入社員が現場で活躍している姿を各出身高校に紹介する「元気で頑張っています」企画を担当し、各出身高校を訪問する際に卒業生の活躍している様子を報告した。さらに、9月に行われた高等学校卒業予定者を対象とした採用試験では、筆記試験監督業務などにも携わった。

(3) S T S 教育研修【5月10日～12月7日】（研修場所：本工場、大泉工場、矢島工場他）

年間を通して実施される S T S（スバルテクニカルスクール：群馬製作所独自の教育として、各職種に応じた専門実技訓練、専門知識講習をはじめ、生産活動における重要項目を学習する）教育に関する業務では、5月に行われた入校式や各研修時における運営の補佐、事後アンケートの集計などに携わった。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

工業高等学校で学ぶ生徒は、製造業への就職を選択する者が少なくない。製造業における主な職種や研修の種類、企業が求める人材などを掲載し、進路選択の参考となる資料を作成した。さらに、製造業で働く人の経験談を生徒へのメッセージとして掲載することで、学校生活の意義や進路選択への意欲を高める内容とした。

(2) 実践の概要（県立太田工業高等学校）

題材名 「社会で必要な力について考える～グループワークを通して～」

（特別活動「ホームルーム」）

対 象 機械・電子機械系第1学年1組39名、2組40名、3組39名

所属校である太田工業高等学校は、多くの生徒が卒業後に就職を希望している。その実現に向けて充実した高校生活を送るためには、新しい環境に適応するとともに、他者との望ましい人間関係を構築することや将来に向けて勤労観や職業観を養うことが必要である。

そこで、研修先で学んだグループワークを取り入れ、他者との活動を通してチームワークやコミュニケーション能力といった社会で必要とされる力について考え、理解させる授業実践を行った。

II 研修成果

1 新入社員研修について

4月の宿泊研修は、新入社員が一同に行うアイデアカーの製作を見学した。ものづくりに対して興味を持たせることや製作過程を知ることを再確認できた。また、製造業におけるQCDS（品質、費用、納期、安全）についても学んだ。実習や課題研究での授業実践で意識させ、ものづくりを通して生徒に身に付けさせていきたい。

企業では新入社員研修以外に独自の研修を多数設けており、社会人になっても立場や経験年数に応じた研修があることを知った。学び続けることの大切さについて伝えていきたい。

2 新規採用業務について

採用業務に携わり、企業がどのような人材を求めているかを学ぶ良い機会となった。コミュニケーション能力に優れた人材を企業は必要としていることを改めて理解することができた。また、実際に採用する立場を経験し、生徒を送り出すことへの責任の重さも感じた。社会人としての規範意識を高める指導、他者とのコミュニケーションを積極的に行う授業を工夫していきたい。

3 キャリア教育実践（授業実践）について

社会で必要な力について理解させ、進路に対する意識を高め、学校生活の改善につなげたいと考え、授業実践を行った。グループワークを通じた演習によって、チームワークやコミュニケーション能力の必要性について理解させることができた。また、将来に向けて明確なビジョンを持っていない生徒に対しても、キャリアプランを考える良い動機付けになった。充実した高校生活を送るためには、入学後の早い時期から生徒一人一人に目的意識を持たせるよう指導していきたい。

III まとめ

企業における人材育成や企業が求める人材について学ぶことができた。配属された人材開発係では、主な業務として社員の研修や教育を行っている。参加した新入社員研修では、アイデアカーの製作や講義を見学し、社会人として必要な基礎知識、心構えなどについて理解することができた。また、階層別研修では、作業におけるチームワークの重要性や課題解決能力、コミュニケーション能力の大切さについて学ぶことができた。学び続けることの大切さを生徒に伝えていきたい。

採用業務を主とする人事企画係では、会社説明会や採用試験の運營業務に携わることができた。生徒を受け入れる側の視点で見ることができ、企業が求める人材について改めて学ぶことができた。

本研修では、株式会社SUBARUの皆様をはじめとする多くの方々にお世話になり、御指導、御鞭撻を頂いたことに感謝したい。今後は、この研修で学んだことを生徒への支援や指導、学校組織の活性化のために生かしていきたい。

（担当指導主事 費田 秀樹）